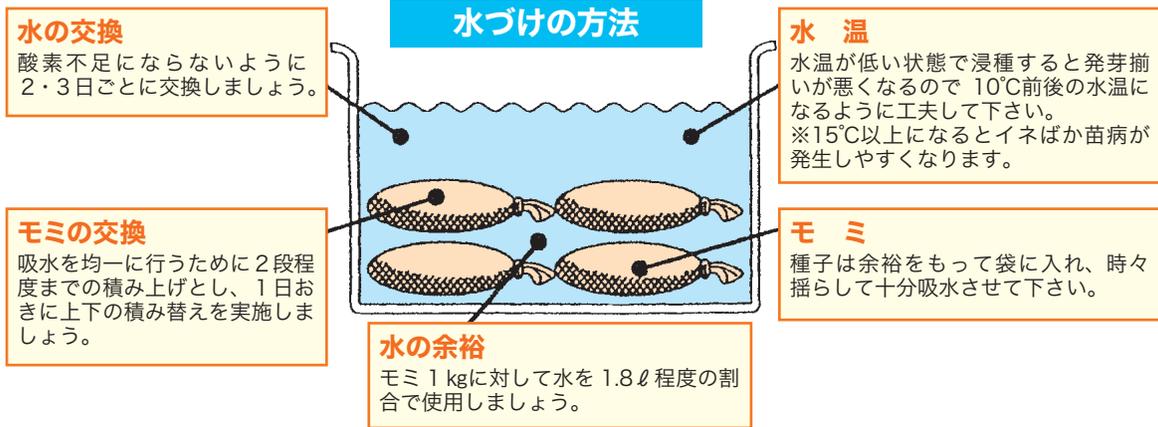


平成30年産米の米づくりが始まります。 計画的に作業を行いましょう!!



◎水稲種子の取扱い

品種を間違わないようにするため、シートパック（網袋）の色・袋数を記載し異品種混入にならないように管理を徹底して下さい。



注) ①温湯消毒種子と農薬で種子消毒した種子は、別容器で水づけを行いましょう。

②水づけの水温は 10℃位で行いましょう。10℃以下の水温で水づけを行った場合吸水が長引き発芽揃いが悪くなります。

③催芽器等で 20℃前後で水づけを行うと日数は短くなりますが、発芽揃いが悪くなります。

◎資材の消毒

育苗期間中の病害の被害を最小限にするため、育苗箱等の消毒を「イチバン」で行って下さい。

希釈倍率…500～1,000 倍

◎育苗ハウスの準備

○今年、計画している育苗箱数が確保できるようハウスの準備を行って下さい。

○育苗期間中に大雨、強風が吹く場合がありますので補修などしっかり行って下さい。

○ハウス内の排水対策、置き床の均平など準備を早目に準備して下さい。

○育苗時の使用資材、特にハウスビニールなどは、注文いただいてから納品まで日数がかかりますので早目に準備しましょう。

◆温湯消毒済み種子の保管とばか苗病対策

平成30年播種用種子の温湯消毒が始まっています。品種別に作業を行い、3月下旬までに作業が完了する予定です。

温湯消毒は「消毒」「冷却」「脱水」「配送」は細心の注意を払った作業に努めておりますが、生産者の皆様におかれましては配送後の「保管・管理」の徹底をお願いします。

ご承知のとおり、温湯消毒は薬剤比で 80% 程度の防除効果です。種子を取り巻く周辺環境と種子の管理方法によっては、様々な場面ではばか苗病に感染・発病する可能性が多く潜んでいます。このため、その種子を使用する生産者は「ばか苗病」を発生させないための取り組みをして行くことが非常に大切です。

ばか苗病対策

種子の配送後は風通しの良い場所に吊り下げてしっかり風乾しましょう。水分が高いまま保管すると種子にカビが発生しばか苗病の原因になります。また、汚れたシートやムシロ等の使用もばか苗病の原因となるので綺麗なものを使用しましょう。